

議会だより



鹿部キッズクラブ（6月26日）いちごの収穫！

第70号の掲載内容

- | | |
|--------------------------|-------------------------|
| ○第2回定例会の概要…………… 2 P～ 3 P | ○一般質問の概要…………… 3 P～ 6 P |
| ○第2回臨時会の概要…………… 6 P | ○委員会の活動…………… 7 P～ 8 P |
| ○議員全員協議会…………… 9 P | ○道内行政視察及び議員研修会…………… 9 P |
| ○会議出席状況…………… 9 P | ○議会の行事…………… 10 P |

発行／鹿部町議会 編集／鹿部町議会運営委員会

委員長 浦 梅吉、副委員長 千葉 光義
委員 船橋 敦子、委員 高橋 茂夫

〒041-1498 北海道茅部郡鹿部町字宮浜299
TEL 01372-7-5296（直通） FAX 01372-7-3086

～平成29年第2回定例会～

平成29年第2回定例会は、6月8日に招集され会期を2日間と決め町長の行政報告が述べられ、その後2名の議員が一般質問を行いました。また、条例2件、補正予算3件、報告1件、その他議案3件の審議を行い、全て原案のとおり可決され、会期を1日残して閉会しました。なお、審議された議案の主な内容は、下記のとおりです。

主な内容

～歳出～

○地域おこし協力隊任用に係る費用 317万2千円の追加

～歳入～

○特別交付税 317万2千円の追加

条例

◆鹿部町特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について

鹿部町地域おこし協力隊員(※)を、非常勤特別職として任用するための規定の整備です。

※地域おこし協力隊は、都市地域から過疎地域等に移住し、一定期間、地域に居住して地域ブランドや地場産品の開発・販売・PR等の地域おこし支援や、農林水産業への従事、住民生活支援などの地域協力活動を行いながら、地域への定住・定着を図る取組です。
本町では、観光施策の強化を図るため、1名の募集を予定しています。

◆鹿部町介護保険条例の一部を改正する条例の制定について

介護保険法施行令の一部を改正する政令に基づき、本条例の一部を改正するものです。

補正予算

◆平成29年度鹿部町一般会計補正予算について

歳入歳出それぞれ551万9千円を追加し、予算総額を28億5251万9千円としました。

内容は、地域おこし協力隊任用に係る費用317万2千円の追加が主なものです。歳入では、この費用全額を特別交付税として追加しています。

◆平成29年度鹿部町国民健康保険事業勘定特別会計補正予算について

歳入歳出それぞれ657万5千円を追加し、予算総額10億557万5千円としました。

内容は、平成30年度からの都道府県による財政運営への移行に向けてのシステ

ム改修などに係る追加が主なものです。

◆平成29年度鹿部町介護保険事業特別会計補正予算について

歳入歳出それぞれ183万6千円を追加し、予算総額3億9630万5千円としました。

内容は、第7期高齢者保健福祉総合計画作成に係る委託業務の追加です。

その他

◆財産の取得について

①一般廃棄物最終処分場の汚泥処理を主な目的とするダンプトラック1台の更新です。

【財産の名称】

最終処分場ダンプトラック

ク

【取得金額】

558万3600円

【取得の相手方】

函館日野自動車株式会社

報 告

②老朽化により故障が目立つ福祉バスの更新で町の行事や学校行事、各種団体の視察等、多目的に使用できる町有バス1台の取得です。(平成30年度納車)

【財産の名称】
町有バス

【取得金額】
3456万円

【取得の相手方】

北海道いすゞ自動車株式会社
北海道いすゞ自動車株式
会社函館支店

③対応年数の経過に伴う小中学校教職員用ノートパソコン31台の更新です。

【財産の名称】

小中学校教職員校務用パソコン

【取得金額】

716万1372円

【取得の相手方】

北海道市町村備荒資金組合

◆平成28年度鹿部町一般会計繰越明許費繰越計算書の報告について

マイナンバーに関して、個人番号カードの普及促進を図るための事業費と、国の補正予算である経済対策分臨時福祉給付金の事業費を、平成29年度に繰越して事業実施するため、地方自治法の規定により繰越した計算書を調製し、報告するものです。



高橋茂夫 議員

地域交通体制づくりについて

公共交通機関タクシーが撤退して久しいなか、高齢化も進み、交通弱者を含む住民の移動手段の確保は喫緊の課題と認識しており、地域住民の定住と活力を確保なものとして行くために、さらには観光客の利便性向上のためにも前向きな取り組みが必要と思われます。

町として今まで様々な取り組みをなされてきたものと思われませんが、その経緯と今後の見通しについて伺います。

■地域交通ニーズ調査等を踏まえ、地域公共交通の方向性を検討し、取り組んでいきたい。

(答弁者)

盛田昌彦 町長

ご質問は、地域交通体制づくりについてということでしたが、議員ご

指摘のとおり移動手段の確保や二次交通への取組は、喫緊の課題として、私も共有してございます。

また、先の第1回議会定例会では、町政執行方針の中で、平成28年度に実施いたしました公共交通ニーズ調査を踏まえ、新たな地域交通体制構築に向けた取組を加速させることとし、交通弱者対策を含めた総合的な視点により施策を展開してまいりたい。と申し上げたところでございます。

なお、議員ご質問は、過去の取組の経緯と今後の見通しの2点でございますが、始めに過去の取組の経緯についてご説明させていただきます。

まず、ハイヤー・タクシー関係についてでございますが、平成18年5月にハイヤー会社が町から撤退し、翌年に函館市内にあります

ハイタク事業者から鹿部町での実態把握とマーケティング調査を検討し、営業展開が可能かどうかというお話をいただきましたが、独立採算での事業立ち上げは困難とのことであり、その後、町といたしましても営業展開を図る上での打乗・妥協点を探る協議も行いましたが、営業展開までに至らなかったところでございます。さらには他のハイタク事業者にもお話をさせていただきましたが、結論から申し上げますと独立採算での事業立ち上げは困難というところでございます。

次に、バス関係についてでございますが、平成22年度に循環型バス運行の検討を開始し、バス路線の計画・運行計画・走行実験を行いました。バスの購入や運行経路のあり方に加え、運行費用が多額であるなど、計画を一時中止した経緯があります。

一方、バス路線に関しましては、北海道新幹線開業に向けた新駅への乗り入れと道の駅しかべ間歌泉公園への乗り入れを、関係機関と調整を図り、全便が乗り



入れ可能となったところでございます。

次に、二次交通についてでございますが、北海道新幹線を利用した観光客等の目的地への交通整備の重要性に鑑み、北海道と渡島管内市町との連携により、周遊バス、観光タクシー及びレンタカーの実証運行を行い、民間事業者による運行の定期化や旅行商品の開発につなげるための取組を展開し、さらには昨年度、函館駅・新函館北斗駅・道の駅しかべ間歇泉公園をつなぐ、無料シャトルバスを国の交付金である地方創生加速化交付金を活用し、実証運行したところでございます。

次に、交通弱者対策についてでございますが、町では介護及び障害に係る町外への移送サービスが事業者により可能となるよう平成17年に福祉有償運送等運営協議会を設置し、現在に至っております。

運行事業、介護予防事業参加者への送迎サービスなどを行っております。



有償運送車両 (社会福祉協議会)

次に、関係計画の策定についてでございますが、町では公共交通の確保・維持・利便性の向上等の取組を促進するため、国の補助金である地域公共交通確保維持改善事業費補助金を活用し、地域公共交通調査事業を平成27年度に実施する方向で、国と協議を実施してまいりましたが、他市町村における既存計画の再編調査事業が優先される状況となり、補助採択が極めて困難なことから、事業内容を精査し、改めて平成28年度において、公共交通ニーズ調査及び分析を行い、その結果を町ホームページと今月号の広報誌に掲載したところでございます。

以上が、過去の取組の経緯でございます。

続きまして、今後の見通しについてでございますが、町では公共交通ニーズ調査や鹿部町を取り巻く環境や内部変化を踏まえ、町の現状及び問題点を分析し、課題を整理してございます。

現状及び問題点としては、
① 続く人口減少と少子高齢化、
② 自動車依存型社会、
③ 少ないバス交通、
④ 買い物や通院等の生活行動、
⑤ 交通環境、
⑥ 地域資源でございます。

課題としては、① 今後増加が予想される高齢者を中心とする交通弱者への対応、
② 通勤等の生活実態に即した公共交通網の検討、
③ 町民が利用したいと思うバス交通の検討と整備、
④ バス利用者の減少への対応、
⑤ わかりやすい運行情報の提供、
⑥ 地域公共交通と広域的な交通ネットワークとの連携、
⑦ それぞれの特性や機能を組み合わせた公共交通軸の形成でございます。

活用いたしましたして、地域公共交通のあり方に関する検討会を立ち上げたところでございます。

この内部組織では、国や北海道などの助言をいただきながら、実証運行の実施に向け検討し、本年度中の実証運行を目指してまいりたいと考えてございます。

いずれにいたしましても、変わらないリスクより変わるリスクを選択し、失敗を恐れず挑戦することが肝要と考えてございますので、今まではと視点を変え、地域公共交通対策に取り組んでまいり所存でございます。

また、基本的な方向性を検討するため、内部組織を

ほとんど頼らない有効な手段の一つとも考えますので、町としての考え方を伺いたいと思っております。

■再答弁の要約
(答弁者)
盛田昌彦 町長

国土交通省の特例制度につきましても、様々な特例があることは承知してまいりまして、そういった制度も踏まえ、鹿部町には何がベストなのか、また長期的に持続可能なものはどれなのかなど、町財政を踏まえた中で検討会によって議論を深めてまいりたいと考えています。

■再質問の要約
(質問者)
高橋茂夫 議員

高齢者の交通事故防止の観点からも交通弱者予備軍の人達が、運転免許証を返上しやすいような環境づくりが急がれていると思っております。全国的には自家用車による有償運送を過疎地などで認める国土交通省の特例制度を使った取組を行っている町があります。

この施策は、町の財政に



子育て世代支援について

現在、町では放課後子供教室を開催し、児童の放課後や夏休みなどの長期休業期間の受入体制を構築しているが、園児以下に対する同様な受入体制が整備されないのが、現状と思われる。

例えば児童と園児がいる世帯の場合、園児を預かる同様なシステムがないため働きたくても働けない世帯が生じております。これは、子育て世代への支援策としては、片手落ちであり早急な対応が課題であるので、町長の見解をお伺いいたします。併せて0歳児から2歳児までの受入体制についてもお伺いいたします。

■就学前における長期休業中の預かり保育について、本年度中に実施したい。
(答弁者)
盛田昌彦 町長

先の第1回定例会において、佐藤議員から、私の公約に対する一般質問をいただいております。

その際に私は、あらゆる場面での子育て支援や保育体制の充実に向け、夏休み、冬休みに幼稚園の子供たちを預かることのできる体制を早急に整備できるように協議したい。また0歳から2歳までの子供を預かるシステムを協議、検討してまいります。と申し上げたところでございます。

現在当町において子育て世代への支援策といたしまして、幼稚園預かり保育及び鹿部キッズクラブを実施しております。平成28年度の鹿部キッズクラブ述べ利用者数は約6千名と子育て支援策としてのニーズが年々高まってきていると感じております。しかし、ご質問のとおり、

当町には長期休業中に就学前の子どもを預けられるシステムはなく、鹿部町子ども・子育て支援事業計画策定のため、子育て家庭より徴しましたアンケートにおいても母親の年齢階層別出生数から見る女性の就業率が全国平均を下回っており、子どもを産み、育てる世代の子育て環境への満足度が低いという結果がでております。



この結果を踏まえ、鹿部らしい子育て支援のため、担当課であります保健福祉課並びに教育委員会と就学前における長期休業中の預かり保育について実施に向けた協議をしており、現在細部について調整中でございますので、調整がつき次第、議員の皆様にご報告させていただきます。本年度中に実施したいと考えております。

次に0歳児から2歳児までの受入体制についてお答えします。

0歳児から2歳児で保育園利用の希望のある保護者につきましては、広域保育事業で対応してまいります。広域保育事業は事業実施している市町村の保育所と町が委託契約を締結し、保育所を利用するものでございます。

今年度は七飯町の保育園に2名、函館市の保育園では1名利用しており、そのうち2名が1歳児と2歳児となっております。

広域保育事業については、保護者の子育てと職業生活の両立を支援するために必要な事業のため、今後も継

続していきたいと考えております。また町内の預かりにつきましても、希望者の声などをしっかりと把握しながら、あらゆる手法を視野に協議、検討してまいります。

■再質問、再々質問の要約
(質問者)
佐藤頼幸 議員

キッズクラブは、年々利用者が増加しても今の体制で間に合うでしょうか。

若い人の意見として子供が生まれても預ける場所がない、生活が苦しくなる、いろいろな話があります。

そこで、幼稚園だけでも保育料や教育費など年収に応じて無料にするような考えがありますか。

また、町独自の考えとして祝い金を出すとかいろいろな考えもあると思えますが町長の考え方をお伺いします。

幼稚園が四十二、三年経過し大分古くなっていきますが、新築し幼稚園と保育所を数年計画でもつくったほうがよいと思えますが、町長の考え方をお伺いします。

20年前から何度も質問していますが、少子高齢化になって20年前から対策すればよかったんですが、鹿部町は何もやらなかったの今僕70歳ですが、自分のことは自分でやると、そういう考えでいます。

それで何よりも若い人が鹿部から離れないような方法として少子高齢化をどういう対策でやっていくか町長の簡単な意見でよいので、自分の考えをお聞きます。

■再答弁、再々答弁の要約
(答弁者)
盛田昌彦 町長

まず最初のご質問ですが、キッズクラブは今の施設で利用者が増加しても、間に合っていくと思っております。次に幼稚園の保育料を年収にに応じて無料にする意見として子供の生まれた時にお祝い金など、その辺も、鹿部町まち・ひと・しごと創生総合戦略の事業のなかで様々な取り組みが議論されておりありますので、その部分も継承してまいりたいと思っております、よりいい支援策、鹿部町に住んで子供を産んで育てていきたいと思

えるような支援策を充実していきたいと思っております。幼稚園と保育所を足したいわゆる認定こども園と言われるものですが、今現状は保育の数など現状を把握したうえで本当に一緒にしたものがないのか、その辺も協議してまいりたいなと思っております。



しかべ幼稚園

平成29年第2回臨時議会

平成29年第2回臨時会は、4月25日招集され、次の案件について審議されました。

承認

◆平成28年度鹿部町一般会計補正予算専決処分報告の承認について

地方自治法の規定により、平成29年3月31日付けで専決処分したもので、歳入歳出それぞれ3962万3千円を増額し、予算総額を30億1291万4千円としました。

内容は、特別交付税の交付額決定、ふるさと納税の寄附金の増が主なものです。

条例

◆鹿部町個人情報保護条例の一部を改正する条例の制定について

個人情報情報の保護に関する法律及び行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律の一部を改正する法律により改正される行政手続きにおける特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律、いわゆる番号法の改正により本条例の一部を改正するものです。

◆鹿部町税条例の一部を改正する条例の制定について

平成29年3月31日公布、4月1日から施行された地方税法等の一部改正に伴う鹿部町税条例の一部改正です。

◆鹿部町国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について
平成29年2月22日公布、4月1日から施行された国民健康保険法施行令の一部を改正する政令に基づき本条例の一部を改正するものとす。

【以上4件原案どおり可決、承認】



道道大沼公園鹿部線の視察を行い、空家の現状を調査しました。

**総務経済常任委員会
所管事務調査**

◇総務経済構成委員

- 委員長 吉 英樹
- 副委員長 三谷百十樹
- 委員 野田 重毅
- 委員 浦 梅吉
- 委員 川村 裕司

◇調査年月日

平成29年5月15日

◇調査方法

担当課より関係資料に基づき説明を受け、現地視察等を実施した。

◇調査結果

○道道大沼公園鹿部線の視察について

平成28年8月31日発生の土砂災害による通行止めから復旧工事を経て平成29年3月21日に通常通行が再開した道道大沼公園鹿部線の視察を行った。

管理者である渡島総合振興局では、連続雨量120ミリに伴う通行規制の撤廃または緩和に向けて、地すべりの原因となる地下水を処理する工事により安全対

策を進めていくとしているが、道道付近を流れる折戸川の管理はもとより、現道の在り方も検討しながら、より安全な対策の促進に向けて北海道に要望することを望むものである。



○空家の現状について

- 平成26年9月実施の調査状況(町職員の目視による)
- ・調査件数475件(町全体3144戸)
- ・空き家の可能性が高い住宅 342戸(大和地区221戸含む)

※別荘は空き家と定義される。

【地区別】

- ※○内はうち廃屋と思われる物件を表す。
- 大岩 10戸(3戸)
- 鹿部 40戸(4戸)
- ↓併用住宅8戸、店舗3戸含む。
- 宮浜 26戸(6戸)
- 本別 266戸(12戸、併用住宅1戸含む)
- ↓大和地区221戸含む。
- 平成29年5月現在の調査状況(町職員の目視による)
- 大岩 10戸(5戸)
- ↓※前回調査からの増減(廃屋2戸追加)
- 鹿部 35戸(9戸)
- ↓空家2戸追加、入居済5戸、取壊し2戸(廃屋5戸追加)
- 宮浜 29戸(11戸)
- ↓空家8戸追加、入居済2戸、取壊し3戸(廃

- 屋6戸追加、廃屋取壊し1戸)
- 本別 267戸(15戸)
- ↓空家3戸追加、入居済1戸、取壊し1戸(廃屋4戸追加、廃屋取壊し1戸)



空家対策の取り組みとして「鹿部町空き家バンク実施要綱」の制定や、町ホームページへの掲載、道外所有者に送付する固定資産税納付書へのチラシ添付による周知、ポスター・チラシ作成による住民への周知を行っている。

将来廃屋になる可能性のある空き家が多いように見受けられ、景観上の観点は勿論のこと、防犯、防災上においても課題が山積していることから、所有者から事情聴取をする必要があると考えられる。このような事務を進めるための条例整備についても慎重に検討しつつ取り組んでいくことを望むものである。



介護保険施設や地域密着型サービスの現状を調査しました

民生文教常任委員会 所管事務調査

◇民生文教構成委員

委員長 船橋 敦子
副委員長 高橋 茂夫
委員 佐藤 頼幸
委員 千葉 光義
委員 中川 一

◇調査年月日

平成29年5月19日

◇調査方法

担当課より関係資料に基づき説明を受け、現地調査を実施した

◇調査結果

■介護保険施設

町内に開設されている施設サービスは次のとおりとなっている。

いずれも要介護認定を受けた方が利用でき、要支援1・2の方は施設サービスを利用できない。

・介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）

常時介護が必要となり、自宅での介護や生活が困難な方が入所する施設で、日



常生活に必要な介護や、機能訓練、療養上の世話等を受けられる。

平成27年4月の制度改正に伴い、新規入所は原則として要介護3以上の方が対象となるが、要介護1・2でも認知症など止むを得ない事情があれば、新規入所が認められる場合がある。
※町内では渡島福祉会が開設している。
(定員50名)

■地域密着型サービス

住み慣れた地域での生活を続けるために、地域の特性に応じた介護保険のサービスが受けられる。

原則として、他の市町村のサービスは受けられない。

・小規模多機能型居宅介護
通いを中心に利用者の選択に応じて訪問や泊りのサービスを組み合わせ、多機能なサービスを受けられる。

※町内ではコミュニティ・ケアしかべが、小規模多機能ホーム「松の木」を開設している。(定員18名)

・認知症対応型共同生活介護（グループホーム）

認知症高齢者が共同生活する住居で、日常生活上の世話や機能訓練などのサービスを受けられる。要支援1の人は利用できない。

※町内ではコミュニティ・ケアしかべが、グループホーム「桜の園」を開設している。(定員9名)

・地域密着型通所介護

定員18人以下の小規模な通所介護施設で、日常生活



上の世話や機能訓練などを受けられる。要支援1・2の人は利用できない。
※町内では渡島福祉会が地域密着型通所介護事業所を開設している。(定員18名)
※渡島福祉会は介護予防通所介護の指定を受けているので、要支援認定の方も併せて利用可能となっている。

介護老人福祉施設や地域密着型通所介護サービスを実施している渡島福祉会の施設の視察では、地域密着型通所介護サービス（小規模「デイサービス」で、男性の利用者が多く見られたのが印象的であった。

介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）では、町内で41名の待機者がいるという現状から、まずは介護を必要としない状態を維持するため、現在も行われているボランティア活動（介護予防サポーター「ささえ隊」、鹿部町ボランティア連絡協議会など）や地域支援事業（あつたかサロン、まる元らくらく体操教室など）の活用による取り組みを引き続き充実させることが重要である。

次期介護保険計画策定に向けては、アンケート等により65歳以上の方々の将来の意向を調査し、計画に反映していくことを望むものである。



議員全員協議会

◇平成29年第1回議員全

員協議会

・開催月日

平成29年4月25日

・内容

しかべ間歇泉公園第2期
周辺整備基本計画素案に
ついてほか

間歇泉公園山側整備につ
いて、この素案をたたき台
に、基本設計に向けた整備
をしていくことの報告など
を受けました。

◇平成29年第2回議員全

員協議会

・開催月日

平成29年6月29日

・内容

幼稚園の長期休業中預か
り保育の実施について

7月27日から開設する長
期休業中に就労等の事情で
家庭が常時留守となってい
る園児の預かり保育「ひま
わり」について報告を受け
ました。

道内行政視察

7月3日、積丹町役場
において、観光振興について
研修、意見交換を行い、町
営温泉「岬の湯しゃこたん」
の視察を行いました。
出席議員のレポートは、
次号に掲載する予定です。

議員研修会

7月4日、北海道町村議
会議長会議議員研修会に参加
しました。

今年度は慶応義塾大学経済
学部教授の金子勝氏、日本
放送協会解説副委員長島田
敏男氏を講師に招き、「ト
ランプ政権と日本経済、地
域経済への影響は？」、「日本
政治の昨日・今日・明日」
と題して講演を頂きました。
研修には全道の町村議会
議員が出席し、長時間にお
たる講演に、熱心に耳を傾
けていました。

平成29年4月～平成29年7月 本会議及び各委員会等の出席状況

(○は出席、×は欠席、△は遅刻・早退、―は該当なし)

会 議	高橋 茂夫	吉 英樹	千葉 光義	野田 重毅	船橋 敦子	中川 一	浦 梅吉	佐藤 頼幸	三谷百十樹	川村 裕司
議会運営委員会 (4/25)	○	―	○	―	○	○	○	―	―	―
平成29年第2回臨時会 (4/25)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成29年第1回議員全員協議会 (4/25)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
総務経済常任委員会所管事務調査 (5/15)	―	○	―	○	―	○	○	―	○	○
民生文教常任委員会所管事務調査 (5/19)	○	―	○	―	○	○	―	○	―	―
議会運営委員会 (6/5)	○	―	○	―	○	○	○	―	―	―
平成29年第2回定例会 (1日目、6/8)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
総務経済常任委員会 (6/8)	―	○	―	○	―	○	○	―	○	○
民生文教常任委員会 (6/8)	○	―	○	―	○	○	―	○	―	―
平成29年第2回議員全員協議会 (6/29)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議会運営委員会 (議会だより編集 7/14)	○	―	○	―	○	―	○	―	―	―

議会の行事

5月

- 15日 総務経済常任委員会所管事務調査 (全委員)
- 19日 民生文教常任委員会所管事務調査 (全委員)
- 鹿部商工会通常総会 (議長)
- 20日 鹿部中学校体育祭 (議長及び議員)
- 22日 渡島総合開発期成会役員会 (議長)
- 30日 南渡島消防事務組合議会第1回臨時会 (関係議員)
- 第1回社会福祉法人渡島福祉会理事会 (関係議員)

6月

- 2日 鹿部温泉観光協会定期総会 (議長)
- 5日 議会運営委員会 (全委員及び議長)
- 6日 鹿部小学校運動会 (議長及び議員)
- 8日 第2回定例会 (全議員)
- 9日 体育文化後援会総会 (議長)
- 13～14日 北海道町村議会議長会定期総会 (議長)
- 16日 第2回社会福祉法人渡島福祉会理事会 (議長)
- 26～27日 渡島総合開発期成会札幌要望 (議長)
- 29日 第2回議員全員協議会 (全議員)

7月

- 3～5日 道内行政視察及び北海道町村議会議長会主催議員研修会 (全議員)
- 8日 平成29年度渡島地方消防総合訓練大会 (議長)
- 12日 渡島地域政策懇談会 (議長)
- 14日 議会運営委員会 (全委員)
- 21日 総務経済常任委員会所管事務調査 (全委員)
- 26～27日 平成29年度渡島総合開発期成会中央要請活動 (議長)
- 28日 民生文教常任委員会所管事務調査 (全委員)



議会を傍聴してみませんか

次回の定例会は、
9月上旬に
開催される予定です。

～傍聴手続きは簡単です～

傍聴席の入り口にある傍聴人名簿に住所と氏名を記入するだけです。

※6月定例会は、13名の方が傍聴しました。

